

阿部哲夫

原発震災

先日原発震災についての講演会を聞いてきました。大変合理的で、大事な話だと思いますので、骨子をご紹介します。

講師は、古長谷 稔氏(北大工学部卒、国会議員公設秘書を経て、現在原発震災を防ぐ全国署名連絡会事務局長)、2005年2月19日、東金文化会館で聞きました。

講演要旨:

浜岡原発は、東海地震の発生が予想されている地域の活断層の上に建設されており、多くの専門家が、近い将来東海地震の発生することを等しく認めている。

原発推進派は、原発は安全だと言っているが、絶対と云うことはあり得ない。特に原発に特有の複雑な配管が危険である。原発の配管は床に固定できないし、熱膨張の関係もあって直線では繋げず、配管は複雑にならざるを得ないのである。何らかの理由で冷却水が循環しなくなれば、チェルノブイリで起こったメルトダウンが発生し、広範・深刻な放射線汚染が現実化する。

一旦ここ浜岡原発が地震に見舞われると、チェルノブイリ並の原発災害に見舞われる可能性が高く、一旦災害が起こると、静岡県のみならず、偏西風の風下にある千葉県その他の地域も、短時間のうちに同様の原発事故の災害を受けることになる。

古長谷氏の提案は、多くの専門家が比較的近い将来に起こることを予想している東海地震地域に建てられている浜岡原発を、少なくとも地震発生までは休止しよう、と言うものである。氏によれば、浜岡を停止しても、歴史的・実績的に見て電力の需給には全く問題はないとのことである。

氏は、原発を正面から否定するのではなく、少なくとも半ば当然視されている東海地震の起こるまでの間は浜岡原発を休止させよう、と主張しているのである。

極く冷静で、合理的な主張ではないかと思う。

この運動には、稲盛和夫、梅原猛、下河辺淳、田中康夫、村田光平(元スイス大使)等の各氏が賛同・推進しているとのことである。

以上